

# 山口大学 AO 入試の 20 年

## —AO 入試のあゆみにみる山口大学の入試改革—

竹 本 真理恵  
林 寛 子

### 要旨

本稿の目的は、山口大学 AO 入試の実施 20 年という節目にあたり AO 入試の改善を見直し、今後の総合型選抜改善の課題を明らかにするとともに、入学者追跡調査による入試の検証の在り方の課題を明らかにすることである。今後、追跡調査の重要性が増す中、これまでの山口大学の入試効果検証を維持しつつ、総合型選抜においては新たな志願者獲得に向けての抜本的な見直しが必要と考える。

### キーワード

AO 入試, 総合型選抜, 大学入試改革, 入学者追跡調査

### 1 はじめに

2021（令和 3）年度入試は山口大学 AO 入試が導入されて 20 年目という節目の年であったが、入試改革の流れの中で文部科学省は 2021 年度入試より AO 入試を総合型選抜という名称に変更した。2021 年度入試を目指して AO 入試が再検討され、他大学では定員増加や選抜手法の変更が行われたが、山口大学は共通テスト導入や一般入試の変更に伴う混乱を考慮し、2021 年度の入試改革に伴う変更後の影響を把握して検討した上で、総合型選抜の見直しを行うこととし、総合型選抜は名称変更のみと決定した。

大学入試改革は、大きな柱であった大学入学共通テストにおける記述式問題と大学入試英語成績提供システムの導入が見送られ、その後、導入について「実現は困難」という見解に至り、文部科学省は 2021 年 7 月 30 日、大学入学共通テストにおける英語民間検定試験と記述式問題の導入断念を正式に表明した。また、もう一つの入試改革の柱であった各大

学の個別選抜において学力の三要素を評価するために大学入試の選抜資料として高校調査書を積極的に活用することも保留となっている。

山口大学は 2021 年度入試を目指して入試改革の議論を行ってきたが、結局は山口大学にとっては大きな改革に至らず、コロナ禍にあっても、全ての入試において大きな影響は見られなかった。その影響か、段階的に入試改革を進めて行くことを確認していた総合型選抜の抜本的見直しを進めて行くような気運が醸成されていない。

しかし、山口大学の総合型選抜は導入されて 20 年である。また、他大学においては総合型選抜が拡大しており、2021 年度入試は、国立大学において総合型選抜は前年度よりも定員が 1,472 人増加している。これは、前年度よりも 31.9% の増加になる（旺文社教育情報センター, 2021a）。さらに、2022 年度入試においては定員が 200 人増加し総合型選抜の国立大学の定員は 6,291 人になっている

(旺文社教育情報センター,2021b)。2021年度入試前後に総合型選抜を改善した他大学との志願者獲得の競争の中で、山口大学の各学部の状況に応じた新たな総合型選抜の枠組みの再検討が重要になっている。

また、2020年1月に公表された「教学マネジメント指針」(中央教育審議会大学分科会,2020)によって、各大学では内部質保証に向けた取り組みが進められ、入学者追跡調査の重要性が増している。山口大学も入学者追跡調査を行い、その研究成果を報告し、さまざまな検証結果を資料として入試改善の検討を行ってきた。山口大学の入学者追跡調査はAO入試の効果の検証としてのAO入学者の追跡から始まり(富永・林,2008)、その後全入学者の追跡調査に発展させて入試の検証を行っているが、「教学マネジメント指針」による動きの中で、新たな動きが生じている。西郡は山口大学を含む個別大学の入試の効果検証の在り方について検証事例を概観し、その枠組みを整理した上で、入試制度の見直しに留まらない教育全体の質的向上につながるDPで示す学生の育成のための検証として機能することの重要性を説いている(西郡,2021)。こうした動きに対応した入試の検証および改善を目指す必要がある。

本稿は、こうした問題関心にそってAO入試20年という節目にあたり、山口大学の入学者追跡調査にもとづくAO入試の改善を見直し、今後の総合型選抜改善の課題を明らかにするとともに、入学者追跡調査による入試の検証の在り方の課題を明らかにすることを目的とする。

## 2 AO入試の導入と20年の実施状況

### 2.1 AO入試導入と選抜システムの変遷

山口大学AO入試は、山口大学として初めてアドミッション・ポリシーによって「求める学生像」を示した入試でもあった。導入1年目は受験生に学力を課さず、アドミッショ

ン・ポリシーに基づいて受験生が持つ基礎学力、創造的な思考力、意欲、適応力などの資質・能力を多面的、総合的に評価する入試として実施された。しかし、学部教員からAO入試入学者に対する学力の問題を指摘されるなど様々な意見があがり、導入2年目から講義等理解力試験が導入されている。以降、AO入試入学者の学力に対する様々な課題が指摘され、AO入試は種々の変更、改善を行ってきた。

「山口大学AO入試5か年総括報告書」によると、AO入試導入の契機は、1998(平成10)年の廣中平祐学長からの提言であった。これが山口大学AO入試の始まりである。

各学部はAO入試の検討を開始するが、時期尚早という声が大きく、導入を前向きに検討したのは、工学部と医学部学士編入のみで、他学部は見送った。それでも工学部及び医学部(学士編入)で実施の意向が示されたことを受け、1999(平成11)年2月8日開催の入学試験審議委員会小委員会において、アドミッションセンターを設置することと、AO入試を実施する方向で検討することが決定され、山口大学としてAO入試導入が正式に機関決定された。

山口大学は、全国の大学におけるAO入試導入の初年度となる2001(平成13)年度実施を目指して文部科学省(当時の文部省)に申請を行っていたが、山口大学の特色を十分に出し切れず、初年度からの実施とはならなかった。

その後、各学部から委員が選出され、AO入試検討委員会が開催され、理念、日程、アドミッションセンターの組織と業務、実施体制等のAO入試の骨格が出来上がり、AO入試実施準備委員会へと引き継がれた。AO入試準備委員会では、学部・学科の募集人員やアドミッション・ポリシーの具体化、実施方法の具体策等、実施に向けての体制が整い、アドミッションセンター設置とともにAO入

試が始まった（三浦,2007）。

山口大学のAO入試の基本的な設計内容は以下のとおりで、この内容を元に、AO入試がスタートした（富永,2007:21）。

（1）自らの意思で出願できる、公募型の入学者選抜であること。

（2）求める学生像や、受験生に求める能力・適正等を明確にし、それに応じた選抜方法を工夫・開発すること。

（3）受験生の能力、適性、意欲、関心等を多面的、総合的に評価すること。

（4）高校生との相互のコミュニケーションを重視するものであること。

（5）専門的なスタッフの充実等十分な体制を整備すること。

この20年、AO入試の選抜システムは常に議論し、必要があれば改善を行ってきた。

20年を振り返ると、大きな変更ポイントを5つ挙げるができる。1つ目は2003

（平成15）年度入試の合格発表段階の変更、

2つ目は2007（平成19）年度入試エントリー制度廃止、3つ目は2008（平成20）

年度入試の第二次選抜面接と講義等理解力試験の評価比率の変更、4つ目は2009（平成

21）年度入試の第一次選抜の書類選考の評価手法と観点の変更（林,2011:17）、5つ目は

2015（平成27）年度の配点基準の明示と、第一次選抜に学部指定の評価項目を追加した

ことである。変更の経緯は以下のとおりである。

1つ目はAO入試実施2年目の2003（平成15）年度である。AO入試実施初年度の

2002（平成14）年度は、今までにない選抜システムで行われた。それまでの入試は、

出願後に選抜を行っていたが、AO入試の初年度は出願前にエントリーをさせ、「面談」と

「体験授業」を実施し、評価した。さらに「面談および進路指導」と称して再度面談を

行い、出願前に実質的な合否を伝えた。出願後の「面接試験」は入学の意思を確認するこ

とが主たる目的であった。しかし、出願前に実質的な合否を伝えたにもかかわらず出願する

受験生がいたこと、出願前に合否を伝えることはありえないと高校側にも混乱を生じさせ

たことを重く受け止め、2003（平成15）年度入試では、従来どおり出願後に提出された

「書類」をもとに一次選抜を行い、一次合格者を発表した。その一次合格者に対して

「面接」と「講義等理解力試験」を二次選抜として実施することに変更した。

2つ目はAO入試5年が経過した2007

（平成19）年度入試である。AO入試導入当初から行ってきたエントリー制度ではあ

ったが、評価のない「面談」や「体験授業」、オープンキャンパスへの参加等、受験生を来

学させ、多額の旅費負担を強いることが課題となっていた。また、今後志願者が増加した

時に「面談」を実施するマンパワー不足も懸念された。さらに、高校側からもエントリー

時期の問題や選抜にかかる期間の長さ等の改善を求める意見が寄せられていた。そこで、

エントリー制度を廃止し、出願時の提出書類で一次選抜を行うことで、マンパワーの省力

化と受験生のエントリー段階にかかる金銭的、時間的負担、さらには入試日程の短縮という

3つ課題を解決した。そしてエントリー制度を廃止したことにより、第一次選抜の評価観

点を再度確認し明確にした。

3つ目の変更は2008（平成20）年度である。AO入試導入から7年が経ち、AO入

試合格者が学部浸透してきた時期に新たな課題が生じてきた。それは主に理系の学部・

学科からの要望であった。理系の学部・学科では、AO入試による入学者の学業成績が芳

しくないという声が多かった。そのため、理系の学部・学科から、基礎的な学力を評価す

ることが可能な講義等理解力試験の評価を高めたいという要望が出された。AO入試では

学力試験では見出せない資質・能力・適性を総合的に評価する入試として面接を重視した

入試を行ってきたが、大学教育を考えると学力も重要であると判断し、面接 5：講義等理解力試験 5 で評価していた第二次選抜を、理系の学部・学科は面接 3：講義等理解力試験 7 の比率で評価することとなった。その後、文系の学部においても学力を重視したいとの意見があがり、現在は面接 5：講義等理解力試験 5 で行っている学部は経済学部のみで、人文学部、教育学部、理学部、工学部、国際総合科学部は面接 3：講義等理解力試験 7 と講義等理解力試験に重きが置かれた入試となっている。

4 つ目の変更点は 2009（平成 21）年度に教育学部小学校教育コースが新設されたことによって生じた、一次選抜のマンパワーの課題であった。2008（平成 20）年度まではアドミッションセンター専任教員が一次選抜の書類選考を行っていた。しかし、小学校教育コースの募集定員は 20 名と多く、従来の選抜システムではマンパワーが足りず、第一次選抜の書類選考が困難になると予測された。そこで、書類選考に必要なマンパワーを確保するため、書類選考委員選出を行うことで人員を増やし、一人当たりの負担を軽減した。また第一次選抜の書類選考の評価手法と評価観点を見直した。

5 つ目の変更は 2015（平成 27）年度である。2015 年度以前は、資格や活動実績を志願票に記載する欄はあるものの、それをどのように評価しているかの明示はしていなかった。この頃、学部から SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校を評価の対象にしてほしいという強い要望や、志願者に保有しておいてほしい資格等の要望があがっていた。そこで、各学部でどのような評価を行いたいのか検討してもらい、各学部の意向に沿って項目を決定した。そして、評価する項目を公表することにした。さらに、全学共通評価項目の調査書・志願理由書・自己 PR、英語の資格、高校における活動と学部指定の

評価項目の配点比率を募集要項に記載することで、学部が求める学生が受験しやすく、受験生にも明確な目的を持って受験対策をしてもらえるように改善した。

2017（平成 29）年、文部科学省は AO 入試において大学教育を受けるために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を適切に評価するため、実施要項上の「知識・技能の修得状況に過度に重点をおいた選抜とせず」との記載を削除し、調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法、例えば、自らの考えに基づき論を立てて記述させる小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など、又は「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか一つの活用を必須化した（文部科学省,2017）。

山口大学においては、既に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する「講義等理解力試験」を実施している上に、資格・検定試験等の加点評価も導入していることから、2021 年度入試はこれまでの AO 入試を引き継ぐかたちで選抜方法の名称変更のみで対応することとした。

このように大小さまざまな変更を加えながら AO 入試を 20 年間実施してきた。こうした変更により当初の制度設計とは異なってきている部分もあり、AO 入試の制度設計に歪みが生じている。今後はそうした歪みの部分をどのように改善していくのか検討が必要であろう。

## 2.2 20 年の実施状況

### 2.2.1 募集人員と志願倍率の推移

募集人員の推移は表 1 のとおりである。

2002（平成 14）年度入試では経済学部、理学部、工学部の 3 学部で 59 人の募集であった。2003（平成 15）年度から人文学部と教育学部が加わり、5 学部で 75 人の募集となった。2008（平成 20）年度に経済学部が 10 人、工学部が 18 人、合計 28 人募

集定員を増加した。2009（平成21）年度は教育学部小学校教育コースが新設され、20人の募集となり、全体で127名の募集となった。これは、全学部の全入試における募集定員の6.6%にあたる。その後、2015（平成27）年度教育学部の改組により、表現情報コース、数理情報コースの募集がなくなり、2016（平成28）年度の人文学部の

改組で定員が10名から7名になった。

2017（平成29）年度からは国際総合科学部がAO入試を開始し、10名募集をした。59名の募集から始まったAO入試は、徐々に募集人員が増加し、20年を経た現在、124名の募集を行っており、AO入試導入当初の目標であった100名を超える規模で実施している。

表1 AO入試募集人員の推移

学部	学科	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
人文	人文社会	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-
	言語文化	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-
	人文学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7	7	7	7	7
	計	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	7	7	7	7	7
教育	学校教育教員養成課程 初等中等教育系	21年度より新設								20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	情報科学教育課程	表現情報コース	-	-	-	-	4	4	4	3	3	3	3	3	3	-	-	-	-	-	-
		数理情報コース	-	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-
	計	-	6	6	6	10	10	10	28	28	28	28	28	28	28	20	20	20	20	20	20
経済	経済・経営・国際経済・ 経済法・観光政策・ 商業教員養成課程	経Ⅰ	15	15	15	15		20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
		経Ⅲ	1	1	-	5		20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
		経Ⅱ	4	4	5	5		20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	計		20	20	20	20	20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
理	自然情報科	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	化学・地球科(化学コース)	4	4	6	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	化学・地球科(地球コース)																				
	物理情報科学科					5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	生物・化学科(化学コース)					4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	地球圏システム科学科					6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	9	9	11	13	15	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	
工	機械工学科	5	5	5	5	5	5	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	6
	社会建設工学科	4	4	6	6	4	5	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	応用化学科	-	-	-	-	-	4	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	電気電子工学科	5	5	5	5	3	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	8
	知能情報工学科	-	-	-	-	-	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	感性デザイン工学科	3	3	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
	循環環境工学科	-	-	-	-	-	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	応用化学工学科	5	5	5	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	知能情報システム工学科	4	4	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	機能材料工学科	4	4	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	30	30	34	34	28	28	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	44	
国際	国際総合科学科																	10	10	10	10
	計																	10	10	10	10
	合計	59	75	81	83	83	81	109	127	127	127	127	127	127	119	116	126	126	126	126	124

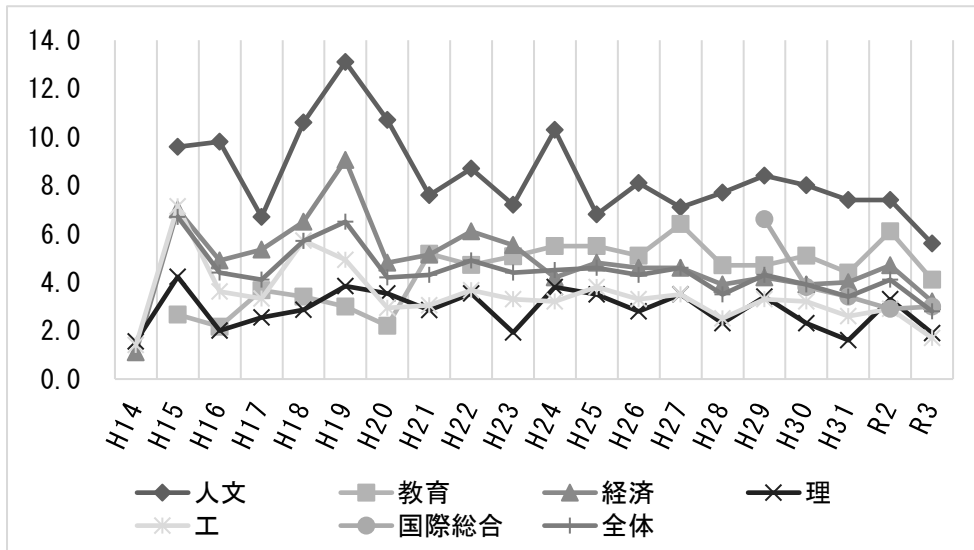


図1 AO入試志願倍率の推移

志願倍率の推移は図1のとおりである。

2002（平成14）年度入試は出願前に「面談及び進路指導」を行い、実質的な合否を伝えた後での出願だったため、倍率は1倍を少し超える程度であった。実施学部は経済学部、理学部、工学部の3学部であった。2003

（平成15）年度から人文学部と教育学部が加わり5学部で実施された。2003年度以降は出願後、3倍を超えた学部・学科は一次選抜を行っている。

人文学部は2003（平成15）年度から2012（平成24）年度までは隔年現象が生じながら8倍から10倍近くの倍率で推移していたが、近年では7倍後半で推移している。

教育学部は2008（平成20）年頃までは3倍前後で推移していたが、2009（平成21）年度以降は5倍前後になっている。これは2008年度までは情報科学教育課程のみの募集であったのが2009年度からは学校教員養成課程小学校教育コースが新たにAO入試を実施し、志願者が増えたためである。

経済学部は2011（平成23）年度までは5倍を超えて推移していたが、2012（平成24）年度以降4倍後半で推移する年が多く、平均で4.3倍となっている。

理学部・工学部は全体的に志願倍率が低く、3倍前半の倍率で推移している。国際総合科学部は、AO入試開始初年度は6.6倍と高かったが、その後3倍後半で推移している。

全体で見ると志願倍率は、4倍後半で推移していたが、10年目を越えたあたりから徐々に下がってきており、近年では4倍を切る年度が増えてきている。今後の志願倍率の減少が懸念される。

### 2.2.2 志願者の出身県

次に、志願者の出身県は表2のとおりである。2002（平成14）年度から2021（令和3）年度まで、志願者が一番多いのは山口県である。

山口県の占有率は25%前後を推移し続けていたが、2021年度は32.4%になっている。これは新型コロナウイルス蔓延の状況で、他県からの出願が少なかったことが影響している。山口県に続いて多いのは、福岡県、広島県、岡山県と続く。近年では岡山県からの志願者が増えてきている。

### 2.2.3 志願者の出身高校学科

出身高校の学科別は図2・図3のとおりである。図2・図3は普通科・理数科を普通・理数科、商業学科・工業学科・総合学科等の

表2 AO入試志願者の出身県

14年度志願者			15年度志願者			16年度志願者			17年度志願者			18年度志願者		
	N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率
山口	33	42.3	山口	191	37.9	山口	93	26.3	山口	91	26.6	山口	107	22.6
福岡	15	19.2	福岡	95	18.8	福岡	51	14.4	広島	46	13.5	福岡	67	14.2
広島	5	6.4	広島	44	8.7	広島	38	10.7	福岡	40	11.7	岡山	43	9.1
兵庫	4	5.1	宮崎	30	6.0	岡山	26	7.3	宮崎	36	10.5	広島	40	8.5
大分	4	5.1	岡山	27	5.4	宮崎	21	5.9	岡山	23	6.7	愛媛	34	7.2
合計	78	100	合計	504	100	合計	354	100	合計	342	100	合計	473	100
19年度志願者			20年度志願者			21年度志願者			22年度志願者			23年度志願者		
	N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率
山口	126	23.8	山口	123	27.1	山口	159	28.8	山口	146	23.7	山口	120	21.5
福岡	98	18.5	福岡	60	13.2	福岡	84	15.2	福岡	94	15.2	福岡	91	16.3
広島	45	8.5	岡山	51	11.2	岡山	44	8.0	岡山	64	10.4	広島	73	13.1
岡山	30	5.7	鹿児島	29	6.4	広島	44	8.0	広島	58	9.4	岡山	54	9.7
大分	27	5.1	広島	26	5.7	鹿児島	31	5.6	鹿児島	46	7.5	愛媛	41	7.4
合計	530	100	合計	454	100	合計	552	100	合計	617	100	合計	557	100
24年度志願者			25年度志願者			26年度志願者			27年度志願者			28年度志願者		
	N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率
山口	152	26.3	山口	127	21.7	山口	130	22.5	山口	141	26.0	山口	96	23.4
福岡	89	15.4	福岡	93	15.9	福岡	107	18.5	福岡	98	18.0	福岡	66	16.1
広島	58	10.1	愛媛	73	12.5	広島	59	10.2	広島	55	10.1	広島	55	13.4
岡山	50	8.7	広島	64	10.9	岡山	58	10.1	岡山	49	9.0	岡山	32	7.8
愛媛	42	7.3	岡山	56	9.6	愛媛	43	7.5	愛媛	43	7.9	長崎	25	6.1
合計	577	100	合計	586	100	合計	397	100	合計	543	100	合計	410	100
29年度志願者			30年度志願者			31年度志願者			令和2年度志願者			令和3年度志願者		
	N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率		N	占有率
山口	125	23.2	山口	126	25.7	山口	117	27.1	山口	128	24.7	山口	112	32.4
福岡	102	19.0	福岡	86	17.6	福岡	76	17.6	福岡	88	17.0	岡山	42	12.1
広島	55	10.2	岡山	50	10.2	広島	39	9.0	岡山	62	11.9	福岡	37	10.7
岡山	51	9.5	広島	49	10.0	岡山	38	8.8	広島	55	10.6	広島	34	9.8
愛媛	34	6.3	愛媛	28	5.7	愛媛	26	6.0	愛媛	25	4.8	大分	19	5.5
合計	538	100	合計	490	100	合計	432	100	合計	519	100	合計	346	100

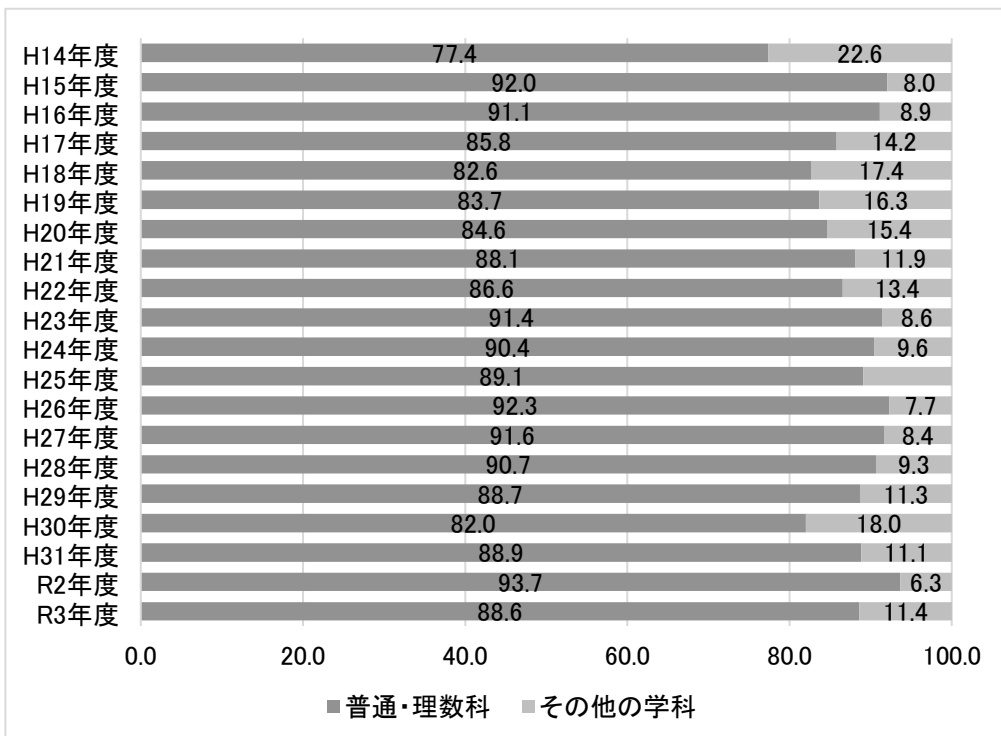


図2 経済学部を除く志願者の出身高校学科

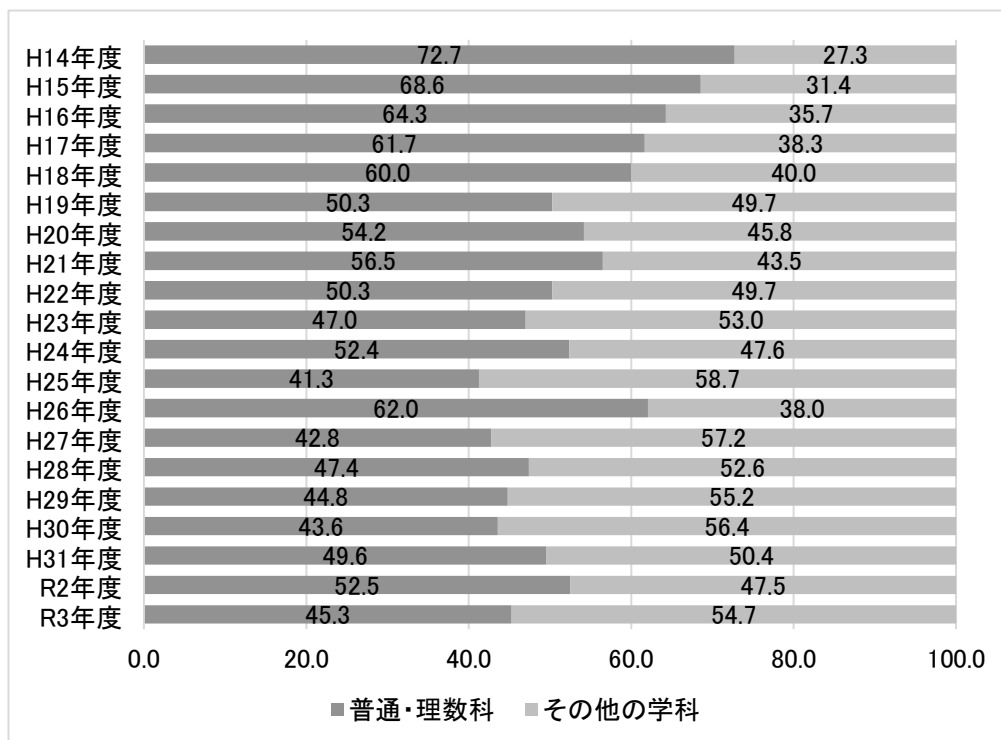


図3 経済学部志願者の出身高校学科

学科をその他の学科とした。図2は経済学部を除く学部の志願者の出身高校学科である。経済学部を除く学部では、その他の学科の志願者の割合は少なく、1割程度となっており、20年間大きな変化はない。なお、図は省略しているが工学部はAO入試を導入して5年目くらいまではその他の学科は3割程度出願していたが、徐々に減ってきており、近年では1割程度にまで減った。

図3は経済学部の志願者の出身高校学科である。AO入試開始当初はその他の学科の割合が3割程度であったが、その後志願者が増加し、近年では志願者が半数を超える年が多くなってきた。商業学科や総合学科等の高校生が受験しやすい環境が整っていると思われる。

#### 2.2.4 再受験率の推移

次に、再受験率(図4)について見る。再受験率とは、AO入試で不合格となった受験生が、他の入試(推薦入試I・II, 前期試験, 後期試験)に出願した率である。2002(平

成14)年度入試は出願前に「面談及び進路指導」を行い、実質的な合否を伝えた後の出願だったため、不合格者は数人であり、再受験率、合格率が高くなっている。2003(平成15)年度から再受験率は26%から42%の間で推移している。2017(平成29)年度以降は35%以上で推移しており、2021(令和3)年度では50%近くまで再受験率が上がっている。AO入試と推薦入試I, AO入試と推薦入試II, AO入試と前期試験を受験している受験生が多くみられる。

合格率は隔年現象があるものの、平均して40%くらいでゆるやかに上昇しており、2021年度では再受験率と同じように50%近くに上昇している。山口大学入学を目指して健闘している受験生が多く、合格にまで至っている受験生が増えてきていることがわかる。AO入試を受験する多くの受験生は、山口大学を第一志望校として希望し、山口大学で学びたいと強く思っている状況がうかがえる。



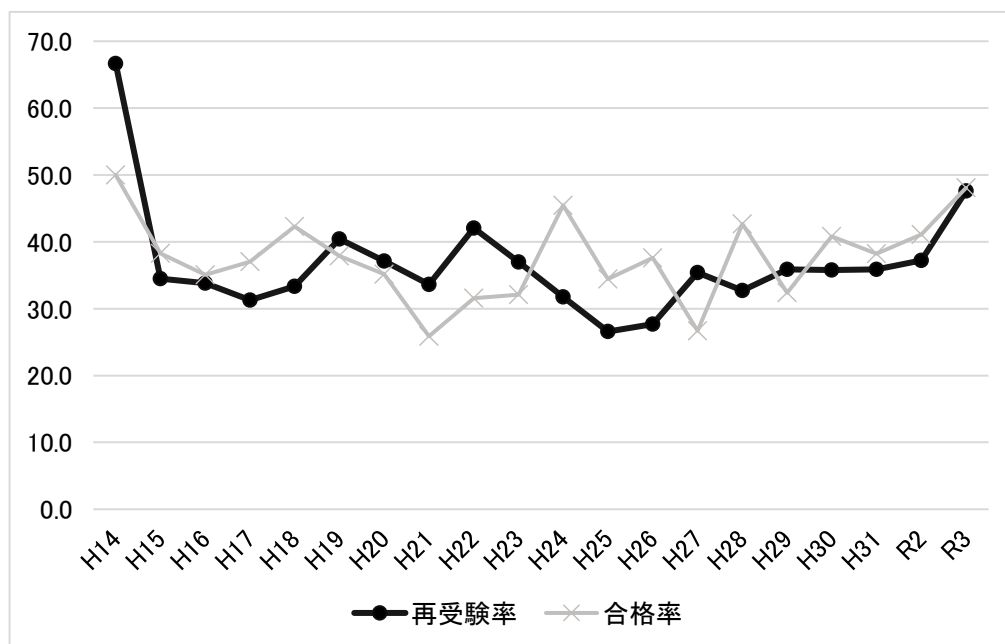


図4 AO入試再受験率と合格率

### 3 AO入試の課題と入試改善

#### 3.1 入試研究にみるAO入試の課題

アドミッションセンターでは、2002（平成14）年度AO入試で入学した学生が卒業する2006（平成18）年から卒業時調査を行っている。調査項目は専門分野の評価、自己評価、大学生活、卒業後の進路等を学部別、入試区分別に分析を行っている。さらに

2006年度の入学者から入学時調査も行っている。調査項目は進学動機、山口大学の受験理由、受験校決定時期、アドミッション・ポリシーの確認、自己評価、説明会等の参加状況等を学部別、入試区分別に分析している。そして、これらの意識調査に加え、入試データ、GPA、TOEIC成績等を繋げ、一人の学生の入学から卒業までを追跡可能にし、入学者追跡調査の分析を行っている。

2009（平成21）年度入学者が卒業した2013（平成25）年から追跡調査による分析を開始し、追跡調査報告書（山口大学アドミッションセンター、2009,2010,2011,2012,2013,2014,2015,）を公表するとともに、大学入試研究ジャーナルにおいてもその成果

（林,2011,2012,2013,2015）を発表してきた。その分析結果から明らかになっていることは、①大学における学業成績(GPA)は、AO入試の学生も一般入試の学生も明確な学業成績の差は認められず、大学入学後のパフォーマンスは同程度であること、しかし、②AO入試の学生はTOEICの得点が低く躓きが見られ、それに伴う留年、退学の割合が高いこと、③センター試験を課さない特別入試（推薦入試I・AO入試）の学生の自己評価が高い傾向にあることであった。追跡調査から明らかになったAO入試の課題は、大学入学後の英語コミュニケーション能力の育成であった。

本稿では、ある年度（A年度）<sup>2）</sup>の入学者追跡調査報告書および、卒業時調査報告書からAO入試入学者の入学時及び入学後の状況を示しておく。

#### 3.2 入学者追跡調査にみるAO入試入学者の入学後

##### 3.2.1 アドミッション・ポリシーの認知度

AO入試とその他の入試区分の学生との違いで特徴的な点は、アドミッション・ポリシーの認知度（図5）にある。図5のA年度だ

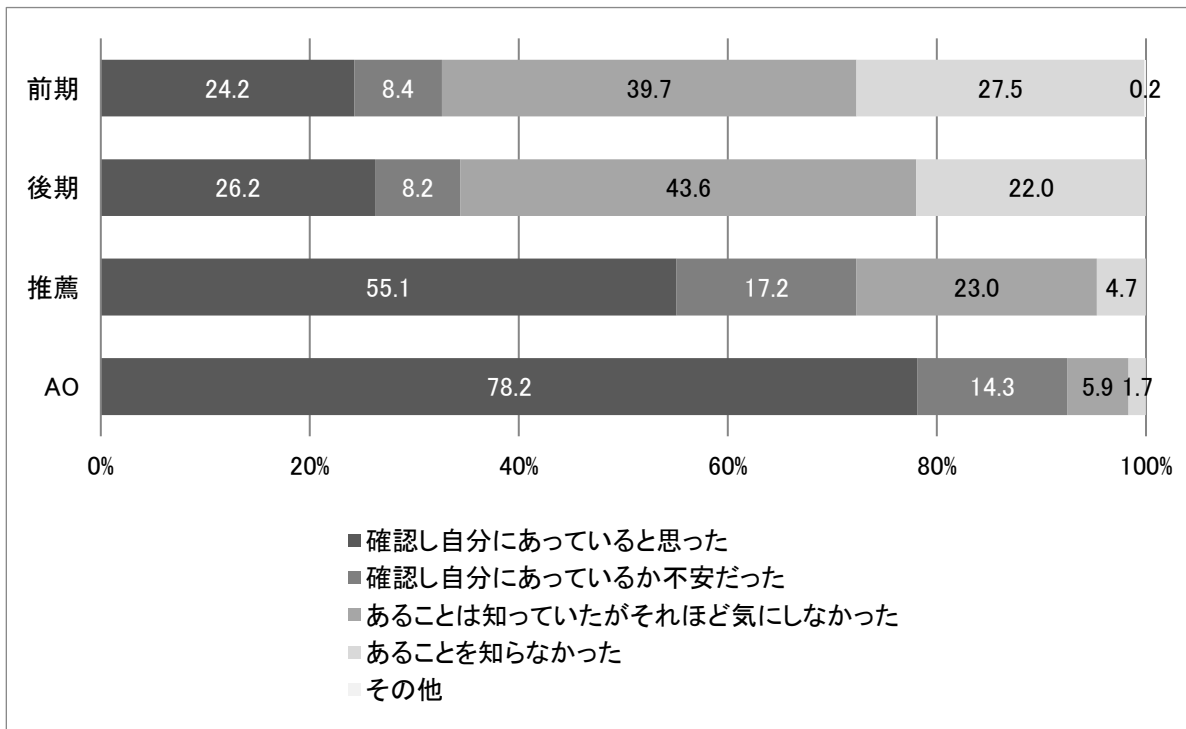


図5 アドミッション・ポリシーの認知

(A年度入学時調査)

けでなく、例年AO入試入学者の8割以上がアドミッション・ポリシーを確認し、合格している。入試広報においてアドミッション・ポリシーの重要性を説明はしているが、AO入試で合格する上においてもアドミッション・ポリシーの確認は必要になっていると言えるだろう。

### 3.2.2 在籍状況

A年度追跡調査による入学者全体の入試区分別在籍状況(表3)をみると、卒業率、在学率、退学率に入試区分による大きな差はない。大学全体における入試区分別在籍状況において、AO入試は他の入試区分と比べて有意な差はない。

### 3.2.3 学業成績

A年度追跡調査の入学者全体の入試区分別GPAとTOEICスコアの平均値(表4)をみる。4年全科目のGPA平均値をみると、入試区分に有意な差は見られない。また、各学部においても確認したが、どの学部にも有意な差は見られなかった。入試区分別による

学業成績の違いはないと言える。

次にTOEICスコアの平均値について見る。TOEICスコアについては、1年時に全員が受験する第1回目のTOEIC初回得点と、TOEICの最高得点の入試区分別の平均点を算出した。分析結果に有意な差は見られないものの、TOEIC初回得点、TOEICの最高得点どちらも、センター試験を課さないAO入試、推薦入試Iは平均値が低い傾向にある。

### 3.2.4 大学生活

A年度入学者の卒業時調査より、入試区分別の「大学時代に活動したもの」(図6)を示す。AO入試卒業者は特にボランティア活動を積極的に行っている。また、インターシップ活動が他の入試区分よりも多い。

### 3.2.5 卒業後の進路

A年度入学者の入試区分別卒業後の進路(表5)である。AO入試の学生は推薦入試の学生と同じで就職率が少し高い傾向にあるが、他の入学区分の学生と比べて、進学率、就職率ともに卒業後の進路に大きな差はない。

表3 A年度入学者全体入試区分別 在籍状況

		在籍状況				合計
		卒業	在学中	退学	その他	
前期日程	度数	983	176	38	4	1201
	%	81.8%	14.7%	3.2%	0.3%	100.0%
後期日程	度数	243	39	14	1	297
	%	81.8%	13.1%	4.7%	0.3%	100.0%
推薦入試Ⅱ	度数	93	11	2	0	106
	%	87.7%	10.4%	1.9%	0.0%	100.0%
推薦入試Ⅰ	度数	101	18	3	1	123
	%	82.1%	14.6%	2.4%	0.8%	100.0%
AO入試	度数	98	16	5	0	119
	%	82.4%	13.4%	4.2%	0.0%	100.0%
その他	度数	3	0	1	0	4
	%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	1521	260	63	6	1850
	%	82.2%	14.1%	3.4%	0.3%	100.0%

$X^2 = 12.680$      $df = 15$      $p = 0.627$

表4 A年度入学者全体 入試区分別 GPA と TOEIC スコアの平均値

		度数	平均値	最小値	最大値	F 値
4年全科目GPA	前期日程	1165	2.41	0.2	3.9	0.715
	後期日程	284	2.47	0.1	3.8	
	推薦入試Ⅱ	104	2.36	0.4	3.6	
	推薦入試Ⅰ	120	2.47	0.3	3.9	
	AO入試	115	2.37	0.1	3.7	
	その他	3	2.65	2.3	3.1	
	合計	1791	2.42	0.1	3.9	
TOEIC初回得点	前期日程	1188	451.16	170.0	940.0	31.995
	後期日程	286	497.17	235.0	880.0	
	推薦入試Ⅱ	105	430.43	250.0	850.0	
	推薦入試Ⅰ	121	386.07	200.0	650.0	
	AO入試	116	380.56	160.0	825.0	
	その他	4	547.50	445.0	680.0	
	合計	1820	448.58	160.0	940.0	
TOEIC最高点	前期日程	1194	496.69	220.0	965.0	25.065
	後期日程	291	533.88	295.0	940.0	
	推薦入試Ⅱ	106	461.46	290.0	850.0	
	推薦入試Ⅰ	123	439.15	210.0	755.0	
	AO入試	119	417.27	160.0	825.0	
	その他	4	580.00	445.0	680.0	
	合計	1837	491.73	160.0	965.0	

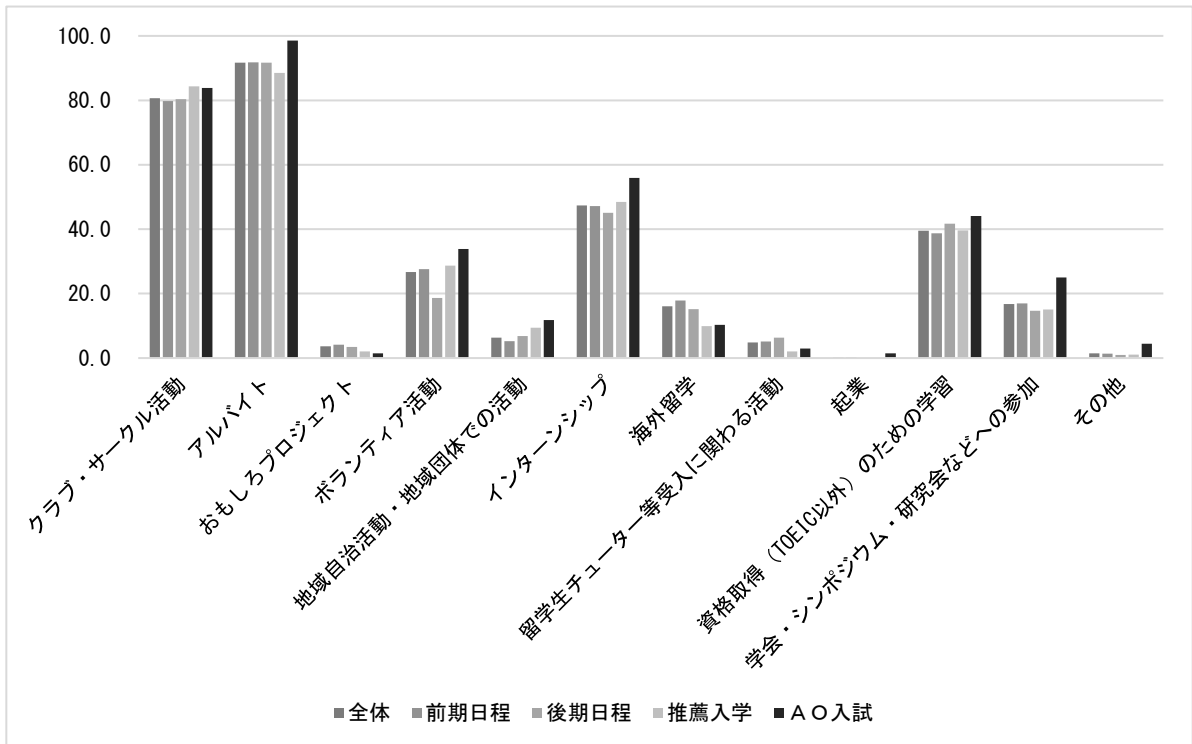


図6 「大学時代に活動したもの」

(A年度入学者 卒業時調査より)

表5 入試区分別 卒業後の進路 (%)

	大学院進学	就職	その他	未定
前期日程	17.6	75.6	2.2	4.6
後期日程	20.8	72.1	1.0	6.1
推薦入試	11.5	81.7	2.9	3.8
AO入試	11.4	82.3	1.3	5.1

(A年度入学者 卒業時調査より)

### 3.3 追跡調査にもとづく入試改善

以上のような分析を学部別、入試区分別に行い、報告書はアドミッションセンターホームページ上に学内限定で公表をしている。追跡調査分析が可能になる以前は学部教員による感覚的な問題意識に基づいて入試改善等を議論していたが、追跡調査開始以降はデータに基づく実態把握が可能になった。

追跡調査によりAO入試の学生の特徴がデータに基づいて明らかになり始めた2013

(平成25)年後期頃、「AO入試の学生の学業成績等が例年よりも劣る」といった気づきが学部教員から指摘されるようになった。

2012(平成24)年度以前の入学者、および2013年度入学者のデータ比較分析の結果、TOEICにおける躓きが認められた。2012年度までの入学者においてもAO入試入学者がTOEICの得点が低いことは課題であった。AO入試では合格した学生に入学前教育としてTOEIC対策を課していたが、合格者全体の平均点の底上げにはなっていなかった。

2013年度入学者は、さらにTOEIC成績が低迷していた。理由は不明だが、AO入試が抱える課題を解決するために2016(平成28)年度入試において入試改善を行うことにした。改善の内容は、AO入試入学者の入学時の英語コミュニケーション能力を保証するために、AO入試の評価方法の詳細を公表し、英語の資格取得者を重視することを示すことにした。

2016年度入試において入試改善を行ったが、AO入試入学者のTOEICの得点はこれまでどおりセンター試験を課す入試の入学者と比較して得点は低い傾向にあることに変わ

りはなかった。しかし、TOEICに躰く学生  
の状況は改善されたようである。また、

2017（平成29）年度からは2021（令和  
3）年度大学入試改革に向けての議論が本格  
化し、一般選抜の改善に重点が置かれたこと  
もあり、以降、学部から特に大きな改善の要  
望はない。

山口大学の入学者追跡調査はAO入試の効  
果の検証から始まった。AO入学者1期生の  
入学後の成長を自己評価および指導教員の評  
価を用いて把握した（富永・林,2008）。そ  
の後もAO入試の効果検証を行うために全入  
学者を対象とした追跡調査に発展させて、入  
試研究を行ってきた。この追跡調査は、現在、  
教学マネジメントにおける検証サイクルの中  
で、効果検証を実施して課題を抽出し、改善  
を検討していくことの重要性が増している。

西郡（2021）や木村（2021）は各大学  
の追跡調査の結果に注目して、入試効果検証  
の枠組みを整理し、入試効果検証に留まらず  
教育改革や教育改善とも連動し、より科学的  
の根拠をもって議論することの必要性が説かれ  
ている。西郡の研究においては、山口大学の  
追跡調査にもとづく総合型選抜等の効果検証  
の研究は「学業成績以外の評価指標を取り入  
れた分析」（西郡,2021:28）として整理をさ  
れ、IRやEnrollment Managementの潮流  
と位置づけられている。

#### 4 今後の山口大学入試改善を目指して

以上、AO入試の20年を振り返ると、初  
期のAO入試の理念、全学入試であることは  
堅持されてきたが、各学部のAO入試の実施  
状況は志願倍率も出願者の属性等も異なる。  
また、2016（平成28）年度入試よりAO  
入試入学者の英語の学力を保証するため、高  
校での学びを評価するために、加点評価を行  
う項目と配点比率等を公表しているが、こち  
らも学部の状況に応じて対応が異なる。各学  
部で抱える課題は異なり、アドミッションセ

ンターが全学入試として統一的に扱うことは  
難しくなっている。学部にとっても全学的  
に統制されることによる学部の制約も大き  
いであろう。各学部が、他大学との志願者獲  
得の競争の中で、志願者を確保できるように  
山口大学の各学部の新たな総合型選抜の枠組  
みを目指した再検討が重要になっていると考  
える。

これに関連して、2016年度入試より高校  
での学びを評価するために、加点評価を行う  
項目と配点比率等を公表したが、その結果、  
社会人や浪人生等の志願者が少なくなってい  
る。おそらく全学評価項目や学部指定評価項  
目が、高大連携に重きが置かれ在学中の高校  
生を対象とした内容になっており、加点をも  
らうことができない状況の受験者は志願を控  
えたのではないかと推測される。今後18歳  
人口が減少する中で幅広く志願者を確保す  
るためには、加点評価の在り方の見直し等が必  
要になっていると考える。

また、2020年1月に公表された「教学マ  
ネジメント指針」によって、入学者追跡調査  
の重要性が増している。山口大学アドミッシ  
ョンセンターにおいては、これまでの山口大  
学の入試効果検証を維持しつつ、山口大学全  
ての入試改善や入試改革、さらには教育改善  
や教育改革につながる現在求められている追  
跡調査の検証の在り方を見定めて実施してい  
く必要がある。

（アドミッションセンター

アドミッションオフィサー）

（アドミッションセンター 准教授）

---

#### 【注】

- 1) 入試区分についての表記は2020年度入  
試までの表記に統一する。
- 2) 度数が少ないデータがある。個人の特定  
を避けるため、年度は明らかにしない。

## 【参考文献】

- (1) 中央教育審議会大学分科会,2020,「**教  
学マネジメント指針**」
- (2) 林寛子,2011,「山口大学の AO 入試の  
選抜方法」『山口大学 AO 入試 10 年  
総括報告書』山口大学アドミッショ  
ンセンター
- (3) 林寛子,2011,「新たな入学者追跡調査  
における選抜方法評価」『大学入試研  
究ジャーナル』,No21,159-164.
- (4) 林寛子,2012,「入学区分別にみる学業  
成績と生活態度と卒業時の意識」『大  
学入試研究ジャーナル』,No22,79-84.
- (5) 林寛子,2013,「大学入学時と卒業時に  
おける学生の「質」と選抜方法の評価」  
『大学入試研究ジャーナル』,No23,79-  
84.
- (6) 林寛子,2015,「入学後の成功と資質・  
能力自己評価にみる入試 の評価ー山  
口大学入学者追跡調査データ分析より  
ー」『大学入試研究ジャーナル』,  
No25,151-156.
- (7) 木村治生,2021,「推薦入試・AO 入試  
の効果に関するレビュー研究ー「個別  
大学の追跡調査」と「複数高校・大学  
を対象とした調査」の結果に注目して  
ー」『大学入試研究ジャーナル』,  
No31,167-174.
- (8) 三浦房紀,2007,「山口大学 AO 入試導  
入の経緯」『山口大学 AO 入試 5 年  
総括報告書』山口大学アドミッショ  
ンセンター
- (9) 文部科学省,2017,「平成 33 年度大学  
入学者選抜実施要項の見直しに係る予  
告について（通知）」  
[https://www.mext.go.jp/content/20200  
318-mxt\\_daigakuc02-000005730\\_10.  
pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200318-mxt_daigakuc02-000005730_10.pdf)（2022.1.11 取得）
- (10) 西郡大,2021,「入学者選抜の効果検  
証の在り方に関する考察」『大学入  
試研究ジャーナル』,No31,27-34.
- (11) 旺文社教育情報センター,2021a,  
「国公立大入試「選抜要項」分析/  
国公立大入試で総合型選抜が急拡  
大！」  
[https://eic.obunsha.co.jp/pdf/exam\\_i  
nfo/2021/0210\\_1.pdf](https://eic.obunsha.co.jp/pdf/exam_info/2021/0210_1.pdf)（2022.1.19  
取得）
- (12) 旺文社教育情報センター,2021b,  
「国公立大入試で総合型の募集人員  
が昨年比 3.6 %増！」  
[https://eic.obunsha.co.jp/pdf/exam\\_i  
nfo/2021/1111\\_1.pdf](https://eic.obunsha.co.jp/pdf/exam_info/2021/1111_1.pdf)（2022.1.19 取  
得）
- (13) 富永倫彦・林寛子,2008,「AO 入試  
1 期生の卒業時における資質・力」,  
『大学入試研究ジャーナル』,  
No.18,107-112
- (14) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2007,『山口大学 AO 入試 5 年  
総括報告書』
- (15) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2013,「2009 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (16) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2014,「2010 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (17) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2018,「2011 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (18) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2019,「2012 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (19) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2019,「2013 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (20) 山口大学アドミッショナルセンター,  
2020,「2014 年度入学者追跡調査  
報告書」
- (21) 山口大学アドミッショナルセンター,

- 2021, 「2015 年度入学者追跡調査  
報告書」
- ( 22 ) 山口大学アドミッションセンター ,  
2016, 「2015 年度卒業時調査報告  
書」
- ( 23 ) 山口大学アドミッションセンター ,  
2017, 「2016 年度卒業時調査報告  
書」
- ( 24 ) 山口大学アドミッションセンター ,  
2018, 「2017 年度卒業時調査報告  
書」
- ( 25 ) 山口大学アドミッションセンター ,  
2020, 「2018 年度卒業時調査報告  
書」